

シリーズ  
原発・いのち・みらい  
その57

芸人・記者  
おしどりマコ・ケン  
の「原発事故取材報告」

理事 打出 喜義 (金沢市・婦人科)

2019年12月15日 その全容の把握が難しく、(目)、ホテル金沢で、おしどりマコ氏・ケン氏による断片的な知識しかないのが現状でした。

4年ぶりの「原発事故取材報告」が行われ、約100人が参加しました。そこで、このたび、石川県保険医協会「原発・いのち・みらいプロジェクト」では、「東電福島原発事故の東日本大震災を契機に東

ちろん2011年3月11日の東日本大震災を契機に東電福島第一原発の原子炉炉心溶解などにより発生した事故を指しています。原発事故発生後、その報道は多岐に渡ったため、私たちは

人からその裏話も含めて、最新の報告をいただきました。



約100人が参加し開催された (12月15日・ホテル金沢)

原発が在すれば、福島のような過酷事故は、また、いつ起きてもおそらくは、日本各地に散在する原発が、もしもテロの標的とでもされれば、わが国は、それこそ、人の住めない国となってしまう。

このたびの、おしどりマコ氏・ケン氏による「原発事故取材報告」は、私たち市民にとって、国のあるべき姿をさらに考える上で、非常に良い機会となりました。

2013年9月8日、東京オリンピック誘致もあつてか、原発事故処理の真つただ中にも関わらず、安倍首相は汚染水の「アンダーコントロール」宣言をされました。しかし、福島原発

民の健康が不安がるにさ



講師のおしどりマコ氏 (写真左)、ケン氏



受付に設置した「おしどりさん取材応援募金箱」には67,627円が寄せられ、お二人に手渡した

事故は、汚染水は言うまでもなく、上述の通りことごとくアンコントローラブルな状態にあると言っても過言ではありません。私たちはこのような冷徹な事実から決して目をそらしてはならないのです。

勤務医 レコラム  
第19回 非常用発電機

青木 達之 (青和病院・精神科)

近年の自然災害などの増加に伴い、自院における非常用電源に関し考え続けてきた。一応ディーゼル発電機があり、時々

保守整備のためか、日中大きな唸り声を上げて動いていた。ディーゼルなので軽油で動き、一応常備の燃料で3時間は動くとのことであつたので、軽油をいくらか備蓄しておけばその間は持つだろうというところで落ち着いた。しかも精神科単科の病院なので、高度な医療機器と言えるようなものは無く、その点においてはそれほど切迫感はなかった。

しかし、数年前にそのディーゼル発電機が壊れた。しかも破損部位がクランクシャフトで、修理

は不可能とのことであつた。ここからが困りどころであつた。この手のものは汎用品が無く、新しいものを設置するまでに数カ月を要するとのことであつた。停電したら生命に直結するような危機は無かつたのでまあいいか、と思つていたら、どうもこの非常用発電機は火災時のスプリンクラーの電源として消防法と建築基準法により設置されているというこのことをこの時初めて知つた。停電になつたら精神科の病院と言えども何かないと気まづいから、とりあえず形

保険でより良い歯科医療を求める請願署名

全国で23万筆提出!

ご協力ありがとうございました

事務局 大田 健志

11月28日(木)、衆議院第二議員会館にて標記署名の提出集会が開催された。2019年春からスタートしたこの署名は全国で23万6,683筆が集約された(11月28日現在)。



石川県保険医協会でも276筆を集約し、この集会で提出した。

基調報告には雨松真希人氏(歯科技工士)が立ち、主に患者窓口負担が受診抑制を誘引している現状への危惧、金バラ価格の不安定性の問題、その他歯科界が抱える問題について、解決策は歯科医療費の総枠拡大しかない、と訴えた。

全国の参加者より、患者さんから治療の内容よりも治療期間や費用の心配をする声が増えたこと、歯科技工士の離職の現状などの報告が行われた。

また当日は、診療報酬の引き上げと患者窓口負担軽減を求める医師・歯科医師署名の石川県保険医協会集約分(55筆)についても保団連を通じて提出した。こちらの署名は全国の会員から1万1122筆を集約した。両署名にご協力いただき、心より感謝申し上げます。